

「face to faceを科学する」月刊イベントマーケティング

# EVENT 58 MARKETING

April 31, 2020

特集  
137人に聞いた!  
コロナ禍のイベント活動・事業

発行所: 株式会社 MICE 研究所  
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 5F  
TEL:03-6721-5303 sofu@event-marketing.co.jp

TAKE FREE

www.event-marketing.co.jp



4月1日に結成された「劇団Zooodooom!」の稽古風景。Zoom画面が舞台。生配信でライブ感もたっぷり

## パジャマでおじゃま

およそ2カ月前、日本でイベント自粛の要請がはじまり、中止か延期か、開催かと悩ましい声が聞かれ始めた矢先、オンラインのライブ配信へと切り替えたビジネスカンファレンスがあり、2月20日に取材した。あれ、たったの2カ月しか経っていないんだと驚くほど、いまや、オンラインイベントは当たり前になった。そして、リアルイベントの代替

手段というよりも、オンラインを前提としたイベントづくりがはじまっている。オンラインのイベントだけで、カレンダーが埋まって、まるで番組表のようにになっているひとも多いのではないだろうか。移動を必要としないので、イベントのはしごがしやすくなったともいえる。

この流れはビジネス系のイベントだけでな

く、エンターテインメントの世界でも進んでいて、今回はそのハイブリッドのようなオンライン舞台の劇団主宰者に取材をした(8p参照)。ビジネスでよく使われるミーティングアプリと演劇を組み合わせて、ライブで配信するというもので、22時の公演に参加した私は、初めてパジャマで観劇した。

公演する俳優みずから前説をして、ツール

慣れしていない観客とおしゃべりしながら、観劇での注意点を教えてくれる。「では、はじまります」と一瞬の間のあと、役の顔で画面に登場して、その仮面の切り替えの早さをライブで楽しめたのも新しい経験だった。

こんな風に、ビジネスツール×エンタメコンテンツなどの組み合わせはこれまでもあったかもしれないけれど、参加者のオンライン慣れが進んでいくほどに、新しい体験の提供を求め、異分野が交流してイベントはもっと加速度的に進化していくのだろう。

(写真提供: 劇団Zooodooom!)

**すべてのイベントの悩み** は、イベントレジストにお任せください!  
ビジネスイベントの豊富な経験と実績、イベント主催者様の立場になってサポートします

- 申込受付管理**  
ウェブ事前受付  
オンライン決済  
チケット発券
- 各種事務局**  
来場者事務局  
スポンサー事務局  
登壇者事務局
- 企画制作・運営**  
カンファレンス  
各種イベントの  
企画制作・運営
- 集客広告**  
各種ウェブ広告  
各種 SNS 広告の  
提案・運用

**イベントレジスト株式会社**  
http://eventregist.com 【資料請求・お問い合わせ】 MAIL:contact@eventregist.com TEL:03-6869-5592

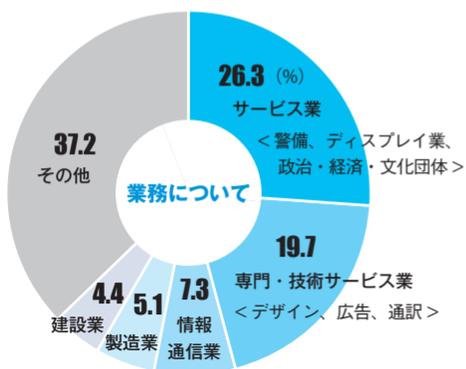
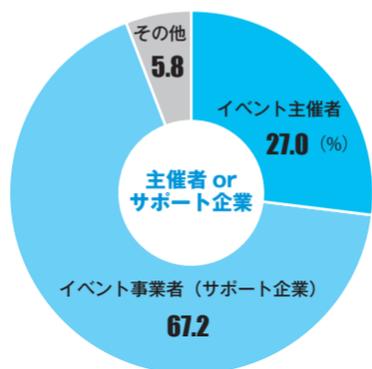
137人に  
聞いた!

# コロナ禍のイベント活動・事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、4月7日、日本政府は7都道府県を対象に緊急事態宣言を発出。16日には、全国に拡大した。こうしたなか、国内のイベント開催は、2月上旬頃からイベントの中止・延期の対応に追われ、イベント自粛の要請がいまも続いている。本紙では、2020年、2021年のイベント開催状況について、現時点の主催者の動きや、イベント事業者各社の直面している課題と展望について現状の声を聞くアンケートを実施。137人から回答を得た。

## 主催者・イベント事業者全体 (回答数：137)

Q イベント活動・事業における立場をお聞かせください



「イベント主催者」はイベントが主体事業であるほか、施策の一つとしてイベント主催する場合も含んでいる。「イベント事業者」は企画・運営、演出、映像などのサポートを主業務とする。「その他」には、コンベンションビューロー、展示会出展者を含む。

イベント業界といってもイベント活動・事業にしている業種は幅広い（総務省「日本標準産業分類」には「イベント産業」はない）。15産業の選択肢以外での回答は20以上。関与する産業は多岐にわたる。

## 定期アンケート「#コロナ禍のイベント活動および事業」

アンケート実施日程：4/8～4/16(予定)

アンケート実施方法：web調査、SNSでの拡散、メール個別送信など

アンケート実施対象：イベントマーケティング読者、イベント主催者、イベント事業者

## 会社の所在地(本社)

東京都	大阪府	埼玉県	神奈川県	群馬県	千葉県
102	8	4	3	2	2
富山県	京都府	福岡県	北海道	新潟県	山梨県
2	2	2	1	1	1
長野県	愛知県	兵庫県	徳島県	長崎県	大分県
1	1	1	1	1	1
					沖縄県
					1

4/7に緊急事態宣言の対象となった7地域に本社所在地がある会社から回答があった。

**mov S IN ARIAKE**

開設のお知らせ

弊社事業イベント仮設テント MOVE-S の見学期間を当初の予定では5月末までとさせて頂いておりましたが、新型コロナウイルスの影響によりイベントの延期や中止が頻発している為、開設を3月末に前倒しとさせて頂きます。

ご愛顧頂きました方々には誠に申し訳ございませんが何卒宜しくお願い致します。

西尾レントオール(株)  
RA 東日本営業部  
TEL : 03-5765-9240  
FAX : 03-5765-3240  
http://event.nishio-rent.co.jp

その他テント等レンタル品、イベントサポート等につきましては右記お問い合わせ先より、随時お問い合わせ受付けております。

総合レンタル業のバイオニア  
**西尾レントオール株式会社**

# 今だからこそバーチャルイベントを

## 導入事例 JASIS WebExpo®

アジア最大級の分析機器・科学機器展示会「JASIS」のオンライン企画としてバーチャルイベント「JASIS WebExpo® 2018」を実施し、リアルの展示会ではアプローチできなかった新たな来場者の獲得に繋がりました。

来場人数(ユニーク)	ユーザー企業来場者率	新規来場者率	コンテンツ閲覧総数
4,800人	66%	34%増	24,000

エントランス 展示会場

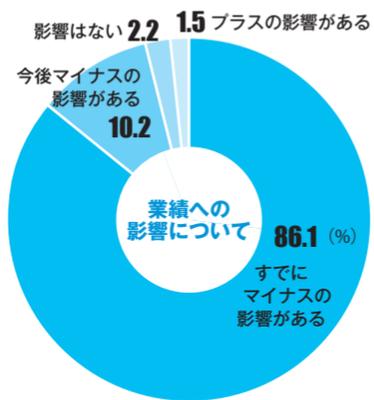
お問い合わせはこちら

**アイティメディア株式会社** 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12  
TEL : 03-6893-2180 (代表) E-mail : sales@ml.itmedia.co.jp

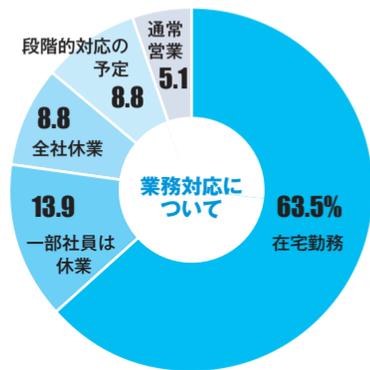
ACCESS!

Q 自社の業績への影響は？

4月7日時点



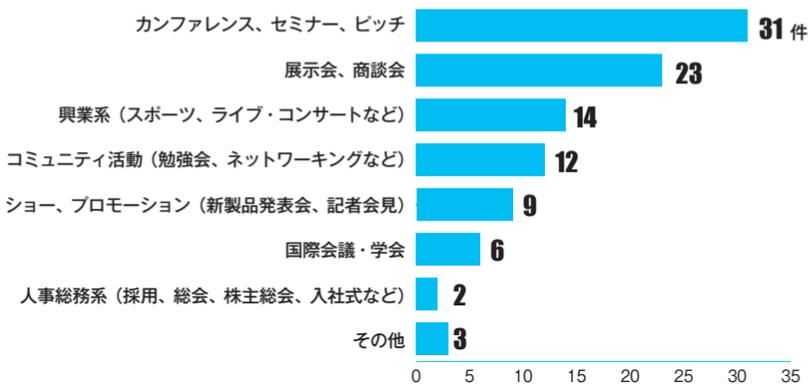
Q 緊急事態宣言発令後の業務対応は？



円グラフ(左)は、「業績への影響」について。すでにマイナスの影響が出ており、今後マイナスの影響があるを含めると96.3%が業績悪化と見通し。円グラフ(右)の「業務対応」の設問には、緊急事態宣言直後だが、63.5%が在宅勤務へと移行していると回答があった。イベントは中止要請があり、現場がなくなったため、休業や一部社員のみ休業とする事業者も

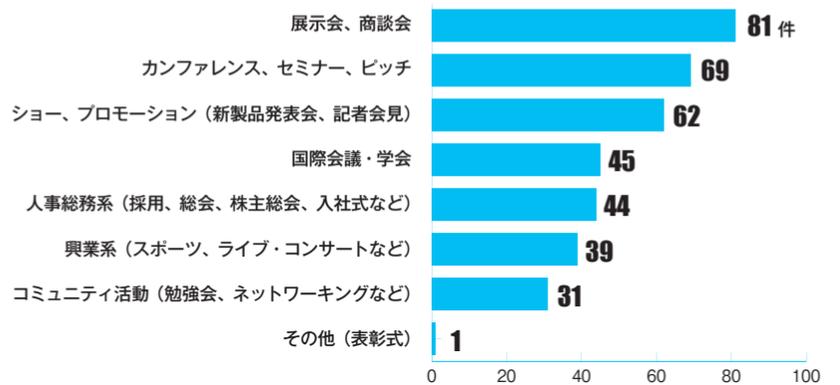
主催者 (回答数：37)

Q どのようなイベントを主催していますか？ (複数回答あり)



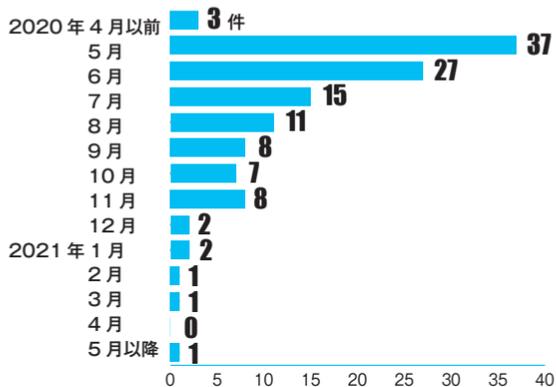
イベント事業者 (回答数：100)

Q どのようなイベントをサポートしていますか？ (複数回答あり)



Q 影響を受けたイベント時期は？ (当初開催月)

2020年度予定のイベントについて、「開催検討中/当初予定より延期/年度内中止/代替開催」など、影響を受けたイベントについて。そのイベントは、当初、いつ開催予定のものでしたか？(複数回答可)



影響を受けたイベント例

\*開催検討中/当初予定より延期/年度内中止/代替開催など

展示会では、第2回京都国際ナショナルギフトショー 2020、第61回国際ナショナルプレミアム・インセンティブショー、インターベツト、ピューティーワールド ジャパン、再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム、MIPIM2020、MIPTV2020など。また、都市型フェスティバルのNoMaps2020(北海道)や長岡まつり大花火大会、ひじり橋博覧会2020など地域に根ざしたイベントへの影響が見られた。シンポジウム、カンファレンス・セミナーではJapan Social Business Fes 2020、SAWC/WHS2020、IRセミナーほか。eSportのPUBG JAPAN SERIES / PJS event match week FlightFreeSoul。

主催者の声 (一部抜粋)

○課題について

- ・収入見込みに対する補償
- ・開催に際しての注意事項などの提示
- ・イベントでのコロナ予防対策、及びケータリングをどのようにするべきか
- ・主催者ごとのキャンセルポリシー

<カンファレンス>

- ・オンラインで、リード獲得とネットワーキングをどう実現させるか

<展示会>

- ・出展者・来場者の双方にとってきちんとビジネスが成立する形でのオンライン商談プラットフォームが知りたい

○オンラインの代替開催について

<セミナー・会議>

- ・ノウハウ、事例の情報
- ・ウェビナー実施の際の気を付けるポイントや視聴者を惹きつける企画事例
- ・半日・終日の長時間でも集中が続く工夫やツールについて

<スポーツ>

- ・e-sports 会場に実況・解説を集めた時と同じようなクオリティの完全オンラインのみでの大会運営を行う必要が出てきた

イベント事業者・サポート企業の声 (一部抜粋)

○イベント実施への道筋

- ・3密対策を具体的に対処していく必要があること、万が一感染者を出した時のトレイサビリティ対策も必要である可能性
- ・イベント開催が可能になる条件/ガイドラインを明確にして欲しい
- ・イベントをやっても良いんだという流れを早い段階で作ってくれる主催者と出展者が出てきてくれるのか

- ・社員、協力業社の経済的な保証及び雇用確保が一番の問題
- ・政府及び自治体からの給付金・助成金等の拡充並びに無保証・無利子融資枠の拡大を望む
- ・主催者、出展者、支援企業を対象とした様々なきめ細かい財政支援に尽きる。

○事業継続/人材確保

- ・施工の大手や経理屋などの職人が業界を離れてしまうことを危惧しています
- ・3～5月の売り上げはゼロ。小さな会社ですが売り上げは億以上とんでいます。前年度売り上げ費のパーセントに比例した支援策をお願いしたい。これから1年は売り上げない覚悟はしています

○変化への対応

- ・資金繰りは大変だが再開された時の来場者に対する細かな運営が問われると思います
- ・ここ数年好調だったイベント・ライブエンターテイメント・MICE 業界が今後(終息後も)どう変化するか不安、復興特需的な政府などの支援策も出てくると思うが、明らかに今までとは違う状況に変化すると思う
- ・こうした状況から、オンラインでの情報発信への取り組みを、主催者は強化するいいきっかけになっていると思います。ともすると、after コロナを考えたときに、オフラインリアルイベントの在り方・意義について、しっかりと向き合い価値提供をする必要がある。こうした部分の強化をあらためて今考えていくべきだと思っています
- ・仕事の意味、流れ、働き方、が変化する潮目。イベント、体験型マーケティングが最もその影響を受けるとも思います。業種を超えた新しいコミュニケーションのカタチという意味では我々がどう変化できるかが重要
- ・オンライン上でいかに顧客体験を感じてもらえるか

○助成/補償

- ・会場キャンセルフィーの無料化(自治体からの補助など)
- ・イベント開催中止による補填も国に補償して欲しい
- ・現在軒並み中止や延期が続いている状況が、いつ収まるのかが見通せないことが非常に不安であり、オリンピックの延期によるさらなる影響について心配に感じています。ぜひ主催者に対しては、適切な補償が受けられることになることを願っています
- ・コロナ終息後のイベント復活のための補助政策

<編集部より>

アンケートご協力ありがとうございました。知りたい情報などのコメントでは、業務推進法の変化や、主催者との情報交換をするオンラインイベント開催の情報、世界の動向などの声が寄せられました。刻々と状況が変わっていますので、定期的にアンケートを行い、状況の把握と変化の兆しを共有して参ります(本紙編集長・樋口陽子)

# 6 + Plus Persons Message

三牧 純一郎氏

経済産業省  
クールジャパン政策課長



**新**型コロナウイルスの感染拡大を受けて、4月7日に政府として、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を行い、16日には全都道府県を緊急事態措置の対象としたところです。

これ以前からも、感染拡大防止のためのイベントの自粛等で、イベント業界は甚大な被害を受けており、業界の皆様におかれては大変厳しい状況が続いていると存じます。政府としては、まず感染拡大の防止と早期の収束に向けて引き続き全力を尽くしてまいります。例えば、経済産業省では、関係団体と連携し、業界の特性も踏まえつつ、ガイドラインの検討の後押しや橋渡しの役割を行っております。

一刻も早い新型コロナウイルス流行の収束に向けて、皆様におかれましても、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に基づく感染拡大防止策の徹底に御協

力いただきますようお願いいたします。

一方、新型コロナウイルスの経済への影響も深刻になっております。政府としては、4月7日に閣議決定された令和2年度補正予算において、追加の緊急経済対策を公表しました。

経済産業省では、現状を乗り切り、そして将来、再び確かな成長軌道へと回復させていくために、まずは、「雇用の維持」と「事業の継続」が最重要課題と認識しております。このため、雇用の維持を目的とする雇用調整助成金の拡充や、事業の継続に向けた資金繰り支援の拡大を実施、更に、極めて厳しい状況にある中堅・中小企業等に

200万円、個人事業者等に100万円を上限に現金給付を行う制度を創設するといった措置を講じます。また、感染症流行が収束した後、今回の感染症により特に甚大な影響を受けている事業者の需要喚起や地域の再活性化をいち早く行っていくことも重要と考えているため、観光・運輸、飲食、イベント等に向けた官民一体型のキャンペーンとして大規模な支援策を展開するべく、検討を進めているところです。

業界の皆様におかれましては、何よりも一刻も早い感染症の収束のため、引き続きの感染防止への御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

浜田 憲尚氏

一般社団法人 日本展示会協会  
会長



**新**型コロナウイルス感染症の影響によって、2月後半から全国の展示会が延期・中止になっている。海外の展示会は延期で対応できるが、日本は展示会場に空きがないため実態はすべて「中止」に等しいのが現状だ。そのため日本展示会協会は、3月上旬に自民党の展示会産業議員連盟と経済産業省へ要望書を提出し、新型コロナウイルス禍による業界の窮状を訴え、支援策を要望した。また3月24日の政府ヒアリング

の場では、安部首相へ直接業界の現状を訴えた。現在、有難いことに経済産業省をはじめとする各機関から支援策を提示していただいている。今後も業界の維持・発展に必要な支援をしていただけるよう、協会としても働きかけを行っていきたい。

展示会産業にとっては「展示会を開催できない」ことが最大の課題である。緊急事態宣言の解除や、感染症拡大が収束したとき、どういう形でならば安心・安全に展示

会を開催できるのか、業界をあげて考えていかなければならないと考えている。そのためには、アフターコロナを見据え、展示会を開催するうえでのガイドライン作成などの活動も行っていきたい。

いまは未曾有の国難を乗り越えるために、業界としても、国民としても耐えているところ。この状況が収束した暁には、日本経済がV字回復できるよう、その備えを業界とともに整えていきたいと思います。

岡星 竜美氏

自白大学メディア学部  
特任教授 (イベント学)



**大**学でイベント学を教えているが、春学期はすべてオンライン講義となった。イベント企画などの演習もあるので、Zoomなどではなかなか難しいと思っていたが、少なくとも大学教員も「生動画配信

をやめた」ようなので、逆転の発想の講義を考案中である。オンライン講義イコールいつもの講義をネット上で行うことではない。真にクリエイティブな学びとは何かという根本が問われているようで、楽しくやりがいを感じ始めている。

イベント/MICE活動の自粛、事業休業などは、イベントが持つ強みの価値として挙げた「人が集う・出会う・交流する」すべてが“三密”に当たるため、今は息をひそめるしかない。これはイベントのみならず、観光含むサービス産業すべてに言える。今リアルイベントを行うことは、まさに国の政策に従わないことになる。その中で、eスポー

ツの大会「RAGE」が「V-RAGE」としてバーチャル開催されたり、「アースデイ東京」がオンライン開催されたりという動きもある。私の所属する学会もハイブリッド開催(リアル&オンライン参加可)する。全国どこからでも研究発表できるのでとても良い。

今後、こんな時期だが、しかるべき“反撃”の時にに向けて粛々と準備することはできる。私の知り合いの大手イベント会社の若者は、アフターコロナを想定したイベント企画を続々と作成している。そのキーワードは〇〇〇(秘密です)で、「なるほど!面白そう」というものであった。それに触発されて、私も新しいイベントモデルを考案中である。

時間ができた時にしかできないこともある。

私も大学教員になる前に小さなイベント会社を持っていたが、「天皇崩御」「9.11同時多発テロ」「リーマンショック」「3.11大震災」などのクライシスで、当時受注していたすべてのイベントが無くなった。ただ、時間と共に、少しずつイベントも復活したのはご存知の通り。コロナが、文化や芸術、スポーツ(オリンピックまで)において、人と人とを分断・離れさせることを強いている。でも、人間は絶対に“集まらなければ生きていけない生物”である。イベントも観光もサービスもいつか復活する。そう信じて耐えていきたいと思います。

株主総会などクローズドのイベントで有効活用

イベントサイト & アプリ 内で  
スマートなライブ配信を提供!

eventos  
https://eventos.tokyo



EVENT MARKETING からの大事なお知らせ

リアルかバーチャルか  
映像がつくるイベントの未来図

次の2020年5月31日号で特集します

♥バーチャル樋口もいかが?



6月30日 展示会・イベント会場特集  
7月31日 食こそイベント! イベマケ5周年  
8月31日 イベントの演出・盛り上げりを因数分解  
9月30日 イベントは大阪だ! エネルギーが止まらない  
10月31日 イベント人材の採り育て方

広告出稿の問合せはこちら ▶ 株式会社 MICE 研究所  
info@event-marketing.co.jp (担当: 田中力)

一人ひとり、個社ではむずかしい課題も、業界団体やネットワークを通じて、共通した課題を見出し、垣根を越えてつながっていくことで、知見がシェアされ、スピード感をもって困難が解消されるかもしれない。苦難の年を空白の年にしないような、力強いメッセージが届いた。

## 平泉 洋氏

観光庁  
参事官 (MICE 担当)



**新**型コロナウイルスの感染拡大は、外出自粛等の影響により、様々な産業に甚大な被害を与えています。MICE 関連業界においても売上減少に伴う経営面への打撃や開催準備に伴う経費の回収等、深刻な問題に直面しており、我が国としても MICE 開催による経済効果や、国際競争力の向上等に対して、甚大な影響を受けるものと憂慮しています。

MICE 関連産業に関わるサプライチェーンは、多岐に渡り裾野も広く、大きな経済波及効果を生み出すポテンシャルを有していることから、まずは、感染防止と雇用の

維持、事業の継続を最優先に取り組みつつ、人の流れと街のにぎわいを創出し、経済の再活性化に繋げる需要喚起策が必要と考えています。

政府では、先般策定した「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」で、雇用維持と事業継続の為、民間金融機関での実質無利子・無担保融資や中堅・中小・小規模事業者、個人事業主に対する給付金制度の創設等を含め、前例にない思い切った措置を講じることとしています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大が収束し、国民の不安が払拭された後は、反転攻勢の取り組

みとして、ワーケーション（休暇中の業務実施）やプレジャー（出張前後での休暇取得）等、働き方改革にも繋がる国民運動を官民で取り組んでいくこととしています。

一日も早く感染拡大が収束に向かうこと、そして、日本が強権的な手段に頼ることなく感染拡大を防いだ安全で安心な MICE 開催国であることを海外に PR できることを切に願っている次第です。官民の MICE 関係者が団結してこの難局を乗り越えるべく、皆様と緊密に連携しながら対応して参りたいと考えています。

## 近浪 弘武氏

一般社団法人日本コンベンション協会  
代表理事



**新**型コロナウイルス感染症禍に直面。我々 JCMA は緊急アンケートを実施し、会員の生の声を聴取しました。実質休業要請対象とも言える MICE 業界は、稼働案件が減少どころかゼロに近い、というのが実態。収束の兆しの見えないなか、今や秋の開催でさえ危ぶまれる状況にあります。

MICE の準備期間には、各種手配とともに協賛・出展者や参加者の勧奨活動が欠かせません。つまり、緊急事態宣言が解除されたとして、人が街や観光地にどっと練り出す性格のものではなく、彼らステークホル

ダーの参画を得て初めて開催可能となるため、回復基調になるには時間を要すであろうことが懸念されます。

我々は、会員非会員を問わず、MICE 事業者すべての支えになりたいと考えています。業界のサプライチェーンが盤石なまま、来たる反転攻勢に備えたい。そうした思いで、会員アンケートをもとにした「新型コロナウイルス感染症により MICE 業界が受けている影響とそれに対する支援策の要望」を観光庁及び官邸へ提出しました。その結果、要望の一部が実現し、通訳者、舞台監督、

カメラマン等 MICE に欠かせないプロ人材への支援を認められたのは一つの成果であり、首相官邸、観光庁、経済産業省のご尽力には大変感謝しています。

今後も、提言活動等により、業界の要望の実現とともに、MICE の、経済効果はもとより、医学をはじめとする学術分野や産業の振興、平和への貢献などの意義の理解を広め、「コロナ後」の V 字回復と新たな発展を目指して参ります。

是非皆で丸となって、この難局を乗り越えていきましょう。

## 安田 弓氏

MPI Japan Chapter  
会長



という間のみこみ、それ以来ビジネスイベント業界の我々もただ立ち竦んで見守るのみだった。

4月14日にオンライン方式で開催された Global Meeting Industry Day 世界ミーティング業界の日 (GMID) には、世界から約 15000 名のミーティング業界専門家がオンライン参加したが、そこで聞かれるのも、スタッフの精神的なケアや、バーチャル会議の手法、中小事業者への行政支援など、いわゆる応急手当のような話題が中心であり、MPI が主体の 12 時間連続セッションもストレスマネジメント手法や瞑想手法が多く、欧米の社会全体がビジネスイベントの中止や延期、そして長期にわたる自宅

待機によって疲れている事を感じた。

業界機関のリーダー達も、確固たる強いメッセージを出せなかったようだが、一方で各国の参加者はお互いに「つながり」を感じる事が出来たこの機会を歓迎していた。世界中の参加者のうちほとんどが自宅からの参加であったが、画面に映る自室の様子や時折聞こえるペットの鳴き声など、本来ならオンライン会議でもあり得ないような「プチ放送事故」などが、かえって人と人のつながりを感じさせ、このオンライン催事を暖かな空気に包んでいたように思える。そして、おそらく今現時点で最も求められていたのは、そのような「会えないけれども繋がっている」という感覚であったのではないかと

思う。

日本でも緊急事態宣言発令後、慣れない在宅勤務形態や、それに伴う遅々とした業務進捗に対してストレスを感じている向きも多いようだが、このような時だからこそ、MPI Japan Chapter では、4月27日(月)に、緊急事態宣言が出されてから初のオンラインセミナーを実施する。

まずは、この状態に対して立ち竦んでいるのは自分だけではないということ、そして皆各自自宅にいてもつながっているという事を再確認して、「ポストコロナ」を意識して、少しでも前に動く為の準備が出来ればと考えている。

もう、元には戻れない。

**新**型コロナウイルス感染症についてのメールを受け取ったのが今年の1月中旬、厚生労働省からの注意喚起の転送だった。当初は対岸の火事として他人事のようにみていたこの感染症は、日本全体をあっ

face to face を科学するイベントメディア

# オンラインも強い EVENT MARKETING

最新ニュースやアーカイブ、  
バックナンバーも読めるウェブサイト



特集記事の裏話や  
イベマケ編集部の  
日常がわかるメルマガ



<http://www.event-marketing.co.jp>  
Facebook と Twitter もやっています



イベントを、もっとラクに、  
もっと楽しくできるはず

いま、イベントバズールは、皆さまのお役に立つため、さらに見やすく、さらに情報を増やして、生まれ変わろうとしています。



<http://eventbuzzle.com>

ただいま、リニューアル中  
もう少々お待ちください

## カナダ経済開発大臣も参加

— Global Meeting Industry Day

展示会、MICEの価値向上を提唱する横断的組織Meetings Mean Business Coalition (MMBC)は、毎年「Global Meeting Industry Day(GMID)」を開催。各国のイベントプランナーの繋がりを支援している。

コロナ禍の影響で、今年は4月14日午後8時(日本時間)から「GMID Goes Virtual」と銘打ってオンラインで開催。イベント産業の状況や財務支援団体などの情報共有、オンライン開催の手法、復興への準備、ミーティングが経済復興で果たす役割を議論。参加者は1万2500人を超えた。

MMBC各支部責任者のディスカッションにつづき、参加者たちへの



カナダ政府のメラニー・ジョリー経済開発大臣がイベント関係者にメッセージを伝えた

Slido でアンケートが行われた。

これまでにオンライン開催したイベント、の質問に“なし”が34%、“ほんの一部”が45%と、グローバルでもオンライン化が進んでいない様子だった。しかし、危機回復後のイベントは、の問いには“ハイブリッド化が進む”が62%と多かった。

また、カナダ政府の経済開発大臣兼公用語大臣のメラニー・ジョリーさんも登壇。ツーリズム産業はガス・石油産業と並び大きな経済的危機を受けているとの認識を示したほか、仕事や収入を失った人へのカナダ緊急対応支援金(CERB)、金利引下げなど銀行や商工会議所への協力要請

といった、行政の支援を説明。イベント業界関係者には支援プログラムの積極的な活用と、関連機関にまず相談していくことを訴えた。

イベント産業の復興については、“簡単なものではない”としながらも、“カナダの経済復興には欠かせない”とし、イベント産業再建の重要性を求めた。「手を取り合って復興に向かおう、希望をもちつづけよう」と業界関係者に呼びかけた。

そのほか産業のキーパーソンによるディスカッションも行われ、知見の共有のほか、プランナーがつかうことで、前に向かって進む勇気と希望が得られるイベントとなった。



女性が活躍するカナダ MICE

## 緊急 Zoom 会議！を毎週開催

— 日本コンベンション研究会

集客交流のあり方を考える日本コンベンション研究会は3月9日、10日に開催予定をしていた「国際観光コンベンションフォーラム 2020in 富山」の延期をうけて、「緊急 Zoom 会議！ MICE フューチャーセッション」を毎週木曜日 20時からオンライン開催としてはじめた。

第1回は4月9日に開催され観光庁や日本政府観光局、各自治体のコンベンションビューロー、ICCA、イベント運営会社などからキーパーソン41人が参加、お互いの現状や世界の最新情報を共有した。

4月16日の第2回は、(株)Will Be 代表取締役の山本由美子さんが

Zoomの機能や使い方を講習、MPI Japan Chapter 会長の安田弓さんが GMIDの内容を紹介、約50人が参加した。

翌週には国際ガス連盟の吉田聡さんが各国での国際会議における新型コロナの影響と今後の動向を語り、JTB 香港支店長の阿部晃士さんが、反政府デモに続く新型コロナ禍のため日本より深刻な香港の観光と MICEの現状について詳細に紹介した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で大きなダメージを受けた MICE 関係者が知恵を出し合い、明日に備える場となっている。



会議の最後には参加者全員で乾杯

## 東展示棟 2021年秋まで貸出休止へ

— 東京ビッグサイト

4月20日、東京ビッグサイトは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(五輪)延期に伴う貸出休止期間の大幅変更について発表した。

東京ビッグサイトでは、東展示棟、西・南展示棟と会議棟、青海展示棟と全館が五輪で利用されることから、2020年はそれぞれに貸出休止期間を設けていた。

今回の大幅変更では、東展示棟(全8ホール・66,140㎡)が、休止期間の延長を発表。五輪でIBC(国際放送センター)に利用される東展示棟は、当初は工事期間の2019年4月1日から撤去の2020年11月30日まで、1年8カ月の休止期間だったのを、今年12月以降も引き続き延長し、2021年の撤去工事完了の日まで使用できないことがわかった。撤去工事完了日の具体的日程は言及されていないが、同様の期間での利用制限となれば、追加で1年間は利用不可となり、利用制限は実質2年8カ月の長期におよぶ。

西展示棟(西全4ホール・29,280㎡)・南展示棟(南全4ホール・2万㎡)、会議棟については、2020年5月6日から9月30日までの約4カ月貸出休止だったが解除。2021年に同様の時期に貸出休止となる。また、青海展示棟(全2ホール・23,240㎡)は2020年7月15日から9月9日までの約2カ月の貸出休止が解除された(青海展示棟は仮設展示棟のため、2021年

以降の貸出については未定)。

東京ビッグサイト全館で約11万5000㎡の総面積のうち、約6割に当たる面積の東展示棟が長期間にわたって利用凍結となる影響は深刻だ。

2020年12月以降に予定していた展示会にはすでに企画・手配・募集を開始しているものも多い。展示会の主催者・支援企業を会員にもつ日本展示会協会では、2020年12月から2021年11月まで東展示棟が使用できなかった場合の損失額を約1.5兆円と試算\*している(売上損失の内訳:主催者430億円、支援企業1440億円、出展者1.3兆円)。\*日本展示会協会が3/31作成した要望書より。

2020年12月から2021年11月までには、すでに多くの展示会・イベントの予約があり、全館使用の「第30回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2020)」(2020年12月7日~12日)や「東京モーターショー2021」(例年は10月~11月)などの大型展示会も予定されていた。



東京ビッグサイト

## オンライン株主総会プラットフォーム共同開発

— bravesoft

ベクトルグループの上場企業向け「IRリリース動画撮り放題サービス/IRTV」を展開する株式会社IR Roboticsとイベント主催者向けイベントアプリ×Live配信サービス「eventos」を展開するbravesoft株式会社は、オンライン株主総会プラットフォームの共同開発・サービス提供を開始した。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、不特定多数の人が参加する株主総会の開催についての見直しが求められ、両社にはオンライン株主総会の実施やライブ配信に対する相談や問合せが急増していた、という。こうした状況から、これまで主に決算発表などのIR動画配信を行って

いるIR RoboticsとイベントアプリやLive配信を行っているbravesoftの両社の共同事業として、オンライン株主総会プラットフォームのサービス提供に至った。

現在、様々な配信ツール(ストリーミング配信サイト、Web会議システム、ウェビナーツール)があるが、参加者登録から視聴までを一貫したプラットフォームによって実現することで、URLの漏洩による部外者の参加を排除し、株主へのメール通知等の手間を削減することができ、セキュリティ面でも安心・安全な株主総会の開催をできることがメリット。

双方向のコミュニケーション活性化機能としては4点。

- ・資料ダウンロード機能
- ・ライブ配信時の質問投稿や設問に対する投票機能
- ・見逃し対応のアーカイブ配信機能(配信期間設定可)
- ・事前や当日に受け付けた質問に対する後日回答機能

利用料金は、法人料20万円とプラットフォーム利用料(60万~150万\*株主数10万名以下。株主数により変動。10万名以上は応相談)。撮影機材レンタルやオペレーションサポート、アンケート機能は別途オプション料がかかる。なお、今回新型コロナウイルスの感染拡大防止への協力に対し法人登録料(20万円)を無償提供している。

## 「個人の衛生管理」を訴求

— “#SafeHandFish” プロジェクト

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による需要増で街中では除菌抗菌液の在庫が逼迫。除菌抗菌液の在庫はあっても容器が不足しているケースもある。こうした状況を打破しようと、お弁当でおなじみのタレ瓶から生まれた“ケータイする除菌抗菌液”を、外出自粛や在宅勤務などで需要が高まるフードケータリングや中食業界に無償で提供し、生活者のもとへ届ける“#SafeHandFish”プロジェクトが広がっている。

企業ブランディングやセールスプロモーション事業を展開する株式会社エードットの企画に、飲食店舗・企業が提携・協力、4月20日からスタートしたもの。外出自粛による大幅な注文減少で、大量に余っていたお弁当用の調味料容器に除菌抗菌液を充填することで、多くの人へ届ける試みで、容器メーカーの救済にもつながる。

今回のプロジェクトは、国連のブリーフである、新型コロナウイルス感染症をクリエイティブで解決する

呼びかけに則り、企画とクリエイティブをエードット、除菌液の提供をクリア電子株式会社、容器の提供を株式会社大石屋の3社協業で個人の衛生管理を訴求。日本人に馴染みのある醤油さし(魚型タレビン)の赤いキャップを、清潔さのシンボルで国連カラーであるブルーに変更している。飲食サービス計13店舗に無償提供する。



携帯する除菌・抗菌液

# ワンストップオンライン配信パッケージ「イベキヤス」提供開始

—— イベントレジスト、Jストリーム、LockUP、TAMARIBA

イベントレジスト、Jストリーム、LockUP、TAMARIBAの4社は、イベント企画、チケットング、映像制作、オンライン配信、プロジェクト・マネジメントといった分野での各社の強みを活かした、ワンストップオンライン配信パッケージ「イベキヤス」の提供を4月21日より開始した。

昨今の状況から多くのリアルイベントが延期または中止を余儀なくされている中、今後はインターネットを活用したオンラインでのイベント開催がさらに増えていくことが考えられる、として提供開始したものの、

- 4社の担当領域は次の通り。
- ・Jストリーム：ライブ、アーカイブ動画配信システム
- ・イベントレジスト：チケットング
- ・LockUP：映像制作、現場対応

・TAMARIBA：イベント企画、プロジェクト・マネジメント  
「イベキヤス」は、セミナー、講演、トークショー、音楽ライブなど幅広いカテゴリーのオンラインイベントへの対応が可能だ。

パッケージ価格の100万円では、3時間1000人の配信が可能。

主催者にとっては、顧客情報のデータベース化により顧客情報分析、アンケート実施、DM送信、グッズ販売といった事後のコミュニケーションができるようになるためファンベースの構築と事後の収益化が設計しやすくなる。

イベント開催の事前から事後まで、サポートスタッフが連絡を受け、打合せ・会場下見後にチケットページを作成、回線手配/撮影手配/サーバー設定、配信ページURLの決定・連絡、機材搬入・リハーサル（前日/当日）をしプロモーションチケットを販売、イベント当日に撮影・配信し、アクセスログの提出やコンテンツのアーカイブ配信、といった流れとなる。



「イベキヤス」のWebサイトより

# バーチャル入社式で新卒 17 名迎える

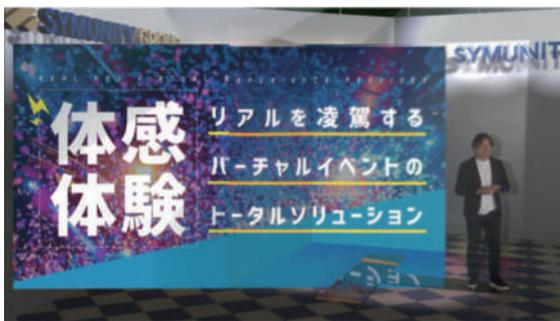
—— シンシティグループ

イベントの自粛要請、在宅勤務など、企業の社内イベントも実施が難しいなか、最先端技術で空間演出をするクリエイティブ集団シンシティグループでは、急遽、バーチャル入社式に切り替え、例年通り、新卒の新入社員を迎えた。今年度は17名。3DCGのデザインなどをするクリエイティブ職、現場オペレーションなどをする総合職と合わせ、今年度は近年最多人数となった。

入社式では、大阪スタジオで代表取締役社長の武仲秀晃氏が新入社員への言葉を贈り、東京スタジオからグループ会社のタケナカ専務取締役でシムディレクト代表取締役の長崎英樹氏が勤務地の辞令を交付。Web会議システム Zoom でバーチャル入社式会場に参加した新入社員は、名前を呼ばれると、画面いっぱいに顔が映し出された。

それぞれの自宅から入社式に参加した新入社員は、「遠くにいる方々の顔や声を実際に聞くことができ、とても安心しました」、「卒業行事の縮小や中止がたくさんあった私にとって、やっと大学生と社会人の大きな区切りとして今日を迎えることができました」、「バーチャルだからこそできる演出にとっても驚きました」といった声が聞かれた。

同社では今年度の入社式は断念しかけたが、バーチャルでも開催しよう



バーチャル入社式で挨拶する株式会社シンシティ代表取締役の武仲秀晃氏

3日前に開催を決定。現在、研修もオンラインで行っており、「入社式はご両親にも安心していただくための大切なイベントです。集中研修は同期と一斉に会う数少ない貴重な時間で、仲間ができることで離職率の低下にもつながる効果もある」とその価値を長崎さんは説明する。

リアルイベント変革を身を以て経験したイベント業界1年生は、これからどんなプロになるのだろうか。

あらゆる価値観を定義する場所  
point 0

## 番外編 #1

# 「point 0 × 清水建設」

Powered by point 0



AgVenture Lab

新型コロナウイルスの感染拡大により日本国内でも緊急事態宣言が発令された。少しでも早くこの状況が改善され、元の生活が送れるようになることを世界中の人が願っている。

今回は番外編として point0 に参画している企業のインタビューを掲載したい。1回目は、「清水建設(株)」(以下、清水建設)にフォーカスする。インタビューにお答えいただいたのは清水建設 大田道広さん(以下、大田さん)だ。

## ゼネコンの仕事は、ただの箱を作るだけではない。

point0 には、設計部門や研究開発部門など様々な部署のメンバーからなるプロジェクトチームが参画している。「元々ゼネコンは大きな建物の箱を作るだけではなく、ハード面からソフト面までお客様が求めるものを集め・組み立てることにある」と大田さんは話す。

また、ゼネコンとして働き方改革支援を推進していくためにもサテライト・オフィスに積極的に入居し、他企業の人と話し触れ合う時間を大事にしているという。そこでの会話や知見をナレッジマネジメントとして社内に持ち帰り積み重ねていく。クライアントに提案する、組み合わせるアイデアを増やすことができ

れば、お客様や社会が求めるソリューションに近づくことができるという。

一つの事例として、東京大手町に昨年5月にオープンしたJAグループのオープンイノベーション施設「AgVenture Lab」がある。清水建設はこのインテリア・設備設計から家具什器、映像音響のプログラムなど一式をパートナー企業と一緒に担当している。

## 求められるものが同じでも、コンテキストが異なればアプローチも変わる。

清水建設ではこれまで長きに渡ってオフィスに求められることの傾向調査を行なっているが、2013年頃から求められるものが同じでも、コンテキストが大きく変化してきているという。

例えば、ペーパーレスは、かつてはスペース合理化のための目的であったが、今は多くの先端企業ではイノベーションを目指す記録マネジメントをした結果達成するものとなってきている。

point0 ではこうした時代の流れを掴みつつもソフト面のソリューションのプロセスをテンプレート化していきたいと話す。

(文・写真・岡本侑子)

# テクノロジーで新しい演劇スタイルを提案

神木 優 さん  
渡部 将之 さん

劇団Zooooom! 主宰者



©mika takano



© 杉浦哲平

コロナ禍の舞台自粛に業を煮やし、リモートで参加できる演劇舞台を構想するやいなや、「劇団Zooooom!」を立ち上げた神木優さん、渡部将之さん。オンラインミーティングアプリZoomを駆使して、様々な設定の舞台をライブ配信する。予定を含み1ヶ月で2作品8公演(3作品目は5月上旬開催予定)を実施。そのスピード感とライブへのこだわりは、新しい事業や制約のなかでの興行のあり方を模索するひとの背中を押す。

<プロフィール紹介>

**神木 優さん**

劇団Zooooom! 主宰者。御伽 嚙 桃太郎をテーマにした一人エンターテインメント「MOMOTARO」は8年目に突入し、6時間耐久一人寄席、30以上との個人や団体とコラボ公演を果たし、国内・海外公演も成功を収める。初書籍「きびだんごの法則」はベストセラーを記録し、企業や学校、様々な団体に講演に呼ばれている。

**渡部 将之さん**

劇団Zooooom! 主宰者。2006年に自身が主宰(初代ライダー)を務める演劇ユニット「円盤ライダー」を旗揚げ。狂言師・大藏基誠の主宰する狂言ラウンジでは芝居部分の脚本・構成・出演で関わる。朝劇丸の内プロデューサー。また地元愛知県にて(株)東山遊園と星が丘フリンジを設立、総合プロデューサーを務め名古屋での文化活動も行っている。

—4月1日に電撃的に結成された「劇団Zooooom!」ですが、結成わずか2週間で旗揚げ公演を実施、翌週には第二弾と矢継ぎ早に展開されています

**神木** とにかくスピードを重視しています。4月1日の立ち上げから2回の稽古で本番です。その間、告知用のWebサイト立ち上げ、公演として成立する脚本検討と演出、俳優・スタッフ陣の確保、集客を同時並行しながら、台詞を覚えました(笑)。

**渡部** この早さでできたのは、お互いに役者だけでなく、自分は演劇ユニット「円盤ライダー」の主宰、神木は一人エンターテインメント「MOMOTARO」の主催と、プロデュース業の経験もあって、判断の場数を踏んでいたからだと思います。コロナ禍で4月から6月の公演が中止になり、何かしなくちゃと思っていたタイミングでした。

**神木** この構想を思いついた時に、真っ先に顔が浮かんだのは、渡部さんでした。朝劇という新しい演劇スタイルを生み出した方で、面白いなあと、この話も面白がってくれそうだと。

**渡部** 共通点は新しさへの柔軟性があることですね(笑)。

**神木** それは大事で、新しいことに否定的だと止まっちゃうんですね。渡部さんって想定と違ったことが起こっても、その状況下でできることはなんだろうと、お互い肯定から入るタイプで。アイデア出しをして進展することが多くありました。一人ではできることも少ないですね。

—Zoomアプリ上での演技は、普通の演劇と違って苦労されたのでは

**渡部** 演技上では特に変わらないんですが、どう映るか、どう観せるかに苦労しました。実験的にやっているうちに、Zoomの複数画面でみせるギャラリービューを演出効果として活用したりはできました。苦労といえば、1つ、通信環境でしたね。実際に1作目は屋内で完結していますが、外へ出て行く演出はWiFi環境がなくて断念しました。

**神木** YouTube上での演劇でもよかったんですが、再現性があったらいつでも観られるというイメージがあったので、同時にこだわ

てZoomにしました。オンラインだけじゃないと時間になったら演劇がはじまって、空間は異なるけれど同じあのワクワクを届けたかったんです。

—旗揚げ公演の前日にはZoomに慣れていないひとへのレクチャーを兼ねたテストミーティングもありました。観劇者同士、顔がみえて演者さんと交流があるのも新鮮で、こうした一体感も醸成できますね。Zoomでのエンタメのメリットは

**渡部** いま、三密につながる演劇を含めたライブエンタメは実施がほとんどできませんが、こうした新しいテクノロジーを使って、同じ時間に集まって、一体となって一つのものをつくることができました。「特等席で観られるのはいいですね」という声もいただいて、パジャマで寝転がりながらや、飲み物や食べ物を楽しみながら、新しいスタイルで演劇を楽しんでもらえるのはうれしいです。

新しい試みにも興味をもつ俳優さんもありますし、客演でこれまでにないコラボもお届けできるかもしれません。新しい興行として成立できるように仲間がふえていくとうれしいですね。

**神木** 旗揚げ公演では、19時の回と22時の回を実施しました。これまで22時開始の演劇なんて終電などを考えたらできませんでした。自宅で帰りの心配なく観ていただけのも、ならではですね。また、東北地方や関西地域など全国から参加いただけたことも、うれしかった。いち早く、累計1000人、2000人とZoom舞台を経験していただいて新しい演劇形態として成功させ、同じように苦境にある俳優人のためにも、エンタメの次なるビジネスチャンスへとつなげていきます。

## EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

大手メーカー・メーカー

▶年間イベント件数:約20件  
デジタルマーケティングと  
オフラインを組み合わせて  
販促とファンづくりに

**特集**  
イベントマーケティングのトレンドを  
国内外の事例や動向から分析し、  
メーカー・イベントの  
皆さんと共有します。

**国内・海外ニュース**  
ツールや  
テクノロジーの最新情報、  
開催直前概況・  
事後レポートなどを  
紹介します。

**コラム**  
幅広い視野と独自の視点、  
経験をもつ  
著名人が執筆します。

**インタビュー**  
リアルコミュニケーションを  
楽しくをテーマに  
話題の方々ほか、インベーター、  
イベントメーカー、  
主催者の声を収録。

**調査・レポート**  
効果測定や開催状況の集計、  
効果最大化の手法など、  
face to faceを科学する  
レポートをお届けします。

製薬会社  
ミーティングプランナー

▶年間イベント件数:100件超  
業界のファーストムーバーとして  
異業種のトレンドを知り  
講演会に活かしたい

IT企業向け  
マーケティングサポーター

▶年間イベント件数:約150件  
イベントマーケティングに関わる  
テクノロジーやツールについて  
情報収集したい

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所:株式会社 MICE 研究所  
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9  
ABCビル 5F  
TEL03-6721-5303  
sofu@event-marketing.co.jp

